マス集中と最適部品配置

高い安定性と操縦性を得るために、新設計エンジンの採用やマフラーのコンパクト化など、全ての部品の設計・配置において、マス集中によるヨー慣性の低減をはかりました。また、マス集中化と共に重要視したのが前後重量配分です。

フロントタイヤからのインフォメーションを的確に得るためには前輪の重量配分を適切に高めることが重要となります。ツアラー系はスポーツ車に比べて前輪の分担荷重比率が低くなる傾向があります。スポーツ性能を高めるためにエンジンや ABS モジュレーターなどの最適なレイアウトを追求し、これまでのスポーツツアラーカテゴリーの分担荷重比率からスーパースポーツに近い分担荷重比率へと見直しを行いました。これにより、高い安定性、操縦性を実現しています。

四分割アルミダイキャストフレーム

強力な V4 エンジンが発生する力を無駄なく路面に伝えると共に、各入力に対しスムーズで安定した挙動を示し、ライダーの操縦に自信を、パッセンジャーには安心感のある快適な乗り心地を提供することを目指しました。そのためにフレームは全ての部位に於いて必要な剛性・強度を確保すると共に、一切の無駄を排除しました。

具現化の設計手法として VFR1200F では 4 分割アルミフルダイキャストフレームを採用しました。連続した同一断面が一切無いほどの造り込みにより、しなやかでありながら安心で、尚且つスポーツライディングを楽しむ事の出来る軽快なハンドリングと車体サイズを一回り小さく感じさせるコンパクト感を実現しています。また、ブレーキング時の車体安定性にも大きく寄与しています。